

Rational. software

IBM Rational ClearCase バージョン 7.1

ハイライト

- 充実したリモート・クライアント、並行開発サポート、自動化されたワークスペース管理、アセットの再利用、およびアクティビティベースの変更管理により、生産性を向上
- セキュリティ機能の充実したバージョン管理および信頼性の高いビルドにより、バグの少ない高品質のコードを開発可能
- 個人のワークスペースと共有の統合領域により、個人のニーズとチームのニーズのバランスを確保
- IDE との統合、オープン・ソースやサード・パーティー・ツールとの統合、クロスプラットフォーム・サポート、リモート・アクセス、およびオフラインでの使用により、開発の柔軟性をサポート
- 大規模で地理的に分散した企業と同様に、小規模なワークグループにも適用可能

ソフトウェア開発やシステム開発を行う組織には、いくつかの共通点があります。いくつかの都市、国、大陸に分散しうるチームのチームワークに依存し、デリバリー方法では、時間がかかり、エラーの発生しやすい手作業の数を減らす必要があります。IBM Rational® ClearCase® バージョン 7.1 は、コラボレーション、自動化、および柔軟な実装により、ビジネスコストの削減、リスクの軽減、高品質ソリューションの開発期間の短縮をもたらし、ビジネスの IT 効率の向上に貢献します。

この包括的なソフトウェア構成管理ソリューションは、グローバルなチームが作業をより簡単に調整できるように、強化された集中管理型のデプロイメント・モデルを提供します。開発チームは、今までよりも高品質のソフトウェアを従来より短期間で提供するという大きなプレッシャーに直面しています。Rational ClearCase は、ソフトウェア・デリバリー・プロセスを簡素化し、生産性を向上させることができます。

生産性を向上させる分散チームの統合

Rational ClearCase は、リモート・クライアントおよびクロスプラットフォーム・サポートにより、分散したチームがより効率的に作業できるようにします。強力なパフォーマンスと接続性は、Rational ClearCase が非常に大規模なエンタープライズ環境のニーズもサポートできることを意味します。

ユーザー・エクスペリエンスの改善

Rational ClearCase バージョン 7.1 は、Rational ClearQuest® の変更管理機能を統合した、強化したリモート・クライアントを特徴としています。リモート開発者にとっての主要なクライアントである Rational ClearCase リモート・クライアントは、開発者に、ワークスペースの作成とファイルの変更を行うための、軽量でありながら機能が豊富なインターフェースを提供します。また、開発者は、自分のタスクを表示して、業務において重要な変更管理機能を実行できます。

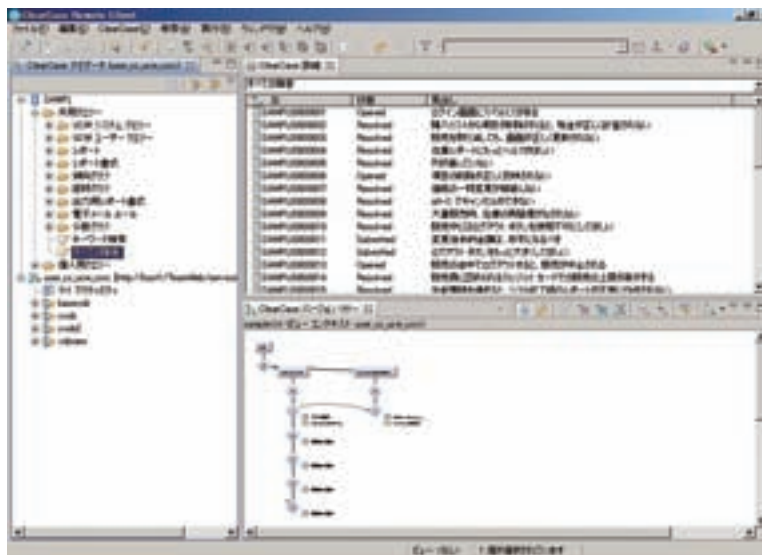


図1 ClearCaseリモートクライアント

開発者に単一のユーザー・インターフェースを提供すると同時に、リモート・クライアントには生産性を向上させる強力なフィルタリング機能や詳細なユーザー・プリファレンスが装備されています。一方で、より良好な調整やコラボレーションに向けてチームを統合するためにも役立ちます。また、ユーザビリティの向上と繰り返し機能の合理化のために、アジャイル・プロセス・サポートが追加されました。

異なるプラットフォームのユーザーを接続することで、Rational ClearCase は異機種混在環境およびクロスプラットフォーム開発をサポートし、分散したチーム・メンバーがプラットフォームが異なってもコラボレーションできるようにします。仮想的に、IBM System z[®]、Microsoft[®] Windows[®]、Linux[®]、および UNIX[®] 環境など、任意の開発環境で開発することができます。組織は、サーバー側で、ソフトウェア・アセットを格納するためにサポートされるさまざまなプラットフォームを選択できますが、その一方で、ユーザー自身やチームのメンバーは好みの統合開発環境 (IDE) での作業を続行できます。

メインフレームにおける投資の活用

Rational ClearCase では、単一のソリューションによって、チームは分散環境やメインフレーム環境を容易に管理できます。強力なパフォーマンスと接続性により、Rational ClearCase は非常に大規模なエンタープライズ環境のニーズもサポートできます。また、開発者にとっては、複数の IDE との統合が強化されたことで、ユーザーが期待してきた柔軟性が実現されています。

いつでも、どこでも、アクセス可能

Rational ClearCase は、さまざまな環境および場所から簡単にアクセスできます。デスクトップ・クライアント、リモート・クライアントを使用して、開発者はセキュリティ機能の充実した、バージョン管理されたオブジェクトに、事実上、世界中のどこからでもアクセスできます。

Rational ClearCase は、Rational Application Developer for WebSphere[®] 環境、オープン・ソースの Eclipse フレームワーク、および Microsoft Visual Studio などの先進的な IDE と統合可能なため、開発チームは好みの環境で作業することができます。

ニーズに合わせた拡張

Rational ClearCase は、単一の場所で働く小規模なワークグループ、複数の地域に広範囲に分散しているチーム、または多数のチームおよび場所で構成される大規模な企業をサポートする強力なパフォーマンスおよび接続性を提供します。言い換えれば、Rational ClearCase は企業の成長に合わせて拡張できる柔軟性を備えているため、ニーズの変更に合わせて新しいツールを導入する必要がありません。

コストを削減し、開発期間を短縮するソフトウェア・デリバリーの自動化

Rational ClearCase バージョン 7.1 は、時間がかかり、エラーの発生しやすい手動の開発アクティビティを自動化することで、開発者および管理者が、よりビジネス価値の高い作業に時間をかけられるようにします。

高度なバージョン管理の実現

Rational ClearCase を使用することで、正しい成果物の正しいバージョンで作業していることを確認できます。Rational ClearCase は、ソース・コード、ライブラリー、文書、バイナリー、Web 成果物、および実質的にデジタル・コンテンツとして示すことができるすべてのプロジェクト成果物を管理します。また、ディレクトリー、サブ・ディレクトリー、およびすべてのファイル・システム・オブジェクトのバージョン管理を行います。開発者は、Rational ClearCase のバージョン・ツリーを表示するだけで、作業しているバージョン、ブランチ、およびファイルを確認できます。さらに、Rational ClearCase には、以前のバージョンを削除し、ブランチを作成および削除し、バージョン履歴を一覧表示し、バージョンの比較とマージを行うことができる高度な機能があります。

並行開発

Rational ClearCase は、並行開発を幅広くサポートするため、開発者は、より簡単に競合を解消し、混乱を削減して、同じコード・ベースまたはリリースで作業することができます。さらに、並行開発サポートにより、複数のプロジェクトに同時に資金を投入し、完了時期に応じて、各プロジェクトをどのようにリリースするかを決めることができます。自動ファイル・ブランチ機能は、特定の変更やバージョンを分離し、同じチームおよび異なるチームの複数の開発者が同じコード・ベースから独立して作業できるようにします。開発および統合ストリーム・モデルは、開発者がコード変更をデリバリーする時期や方法を定義します。また、実績のあるマージおよび差分機能は、競合しない変更を受け入れ、競合する変更は迅速に解消するように強調表示します。

個人用ワークスペースの管理

Rational ClearCase を使用すると、個人用ワークスペースを詳細に管理し、さまざまな種類の開発アクティビティに必要とされる正確なファイルおよびディレクトリー・バージョンにシームレスにアクセスできます。また、2種類のビュー、すなわち仮想ワークスペースが使用できます。動的ビューは、大規模なワークスペースへの即時アクセスを実現します。従来のように、コピー・ベースのワークスペースを設定するコストや手間は不要で、ネットワーク上の複数バージョンの要素に透過的にアクセスできます。スナップショット・ビューは、コピー・ベースのワークスペースを提供します。これにより、会社のネットワークに接続されていない場合も、ファイルのローカル・コピーに対する作業を続行できます。また、再接続した場合に変更内容も容易に同期できます。開発チームは、設定やプロジェクトのニーズに基づいて、ビューを組み合わせることができず。

アクティビティ・ベースの変更管理の使用

Rational ClearCase および Rational ClearQuest 変更管理製品を連携すると、ソフトウェア・アセットに対する変更をアクティビティとして定義および管理できます。一元化された変更管理機能により、Rational ClearCase のファイル・バージョンは論理アクティビティにグループ化

されて、Rational ClearQuest の変更依頼に関連付けられます。このアクティビティ・ベースのアプローチにより、個別のファイルを管理するのではなく、タスク・レベルで作業を管理できます。障害および提案されたプロジェクト変更などの開発イベントが、特定のファイル、バージョン、ベースライン、またはリリースにどのような影響を与えるかを示す包括的なビューも使用できます。

ビルドおよびリリースの管理

ビルドおよびリリース管理プロセス全体を自動化するために、Rational ClearCase を Rational Build Forge® と統合できます。Rational Build Forge は、Rational ClearCase リポジトリーを常に監視し、変更が発生した場合や、またスケジュールどおりの場合も、ビルドを実行します。この自動化されたビルド機能は、コンパイルや統合の問題を追跡するために必要な時間を大幅に短縮します。また、下流のテストおよび開発アクティビティを遅延させる可能性があるエラーも削減します。

継続的なプロセスの改善とガバナンスの促進を可能にするための洞察

Rational ClearCase では、プロジェクトのアセットおよびステータスにチームがリアルタイムかつ一元的にアクセスできるため、既存のプロセスを改善する方法が明確になります。

セキュリティ機能が充実した環境でのバージョンの管理

Rational ClearCase は、セキュリティ機能が充実した方法で開発アセットを取得し、バージョン管理が行える、堅固で集中管理されたリポジトリーを提供します。アクセス制御は、許可された個人のみが変更を行えるようにします。ユーザー認証は、オペレーティング・システムの認証メカニズムや、業界標準の Lightweight Directory Access Protocol(LDAP) によって実行されるため、リポジトリーに誰がアクセスしているかを常に把握できます。ユーザー・ベースおよびグループ・ベースの権限をサポートすることで、ファイルおよびディレクトリーへのアクセスを制限します。

Rational ClearCase オブジェクト(ブランチ、ラベル、エレメント、およびメタデータ)には、ユーザー・ベースのロックが使用できます。プログラムによる認証は、実行される処理に基づいて発生します。

ビルドの監査

Rational ClearCase は、ガバナンスへの取り組みを支援する効果的なビルド監査機能を備えています。これは、編集、ビルド、デバッグのサイクルを合理化し、ソフトウェア・バージョンの正確な再現に役立ちます。また、Rational ClearCase では、開発者が再利用できるビルドされたオブジェクトを自動的に識別したり、複数のビューから共有するための詳細なソフトウェア部品表を生成できます。依存関係を検出し、派生オブジェクトを可能な限り再利用し、詳細なビルド監査証跡を作成することで、Rational ClearCase はソフトウェア・バージョンの再現性を確実にします。

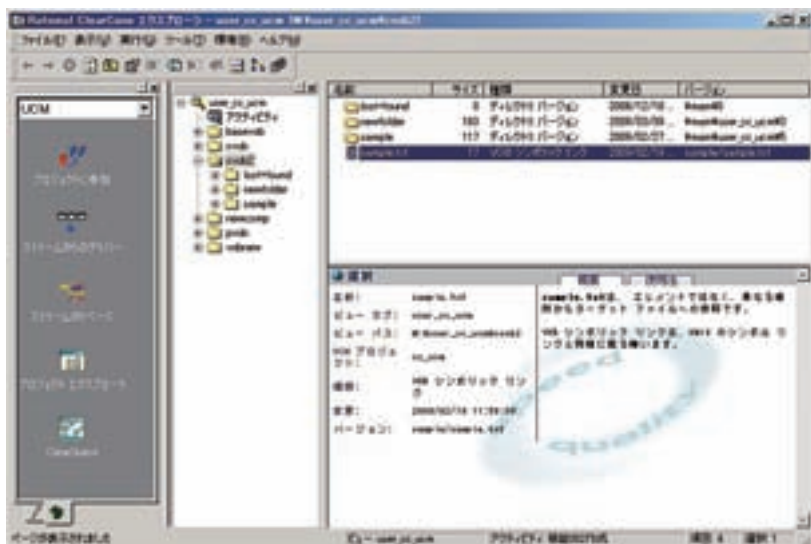


図2 ClearCaseエクスプローラー

レポートによる知見の改善

Rational ClearCase を強化されたレポート機能を持つ Rational ClearQuest と統合できます。この機能には、複数のレコード・タイプおよびデータ・ソースにわたるレポートを作成できるレポート・デザイナーが装備されています。さらに、要約チャートおよび詳細な親子関係を持つドリルダウン・レポートを作成できるようになりました。また、業界標準の検索機能により、検索エンジンのように条件を指定して情報に迅速にアクセスすることができます。これにより、業務への知見を深め、プロセスを改善する機会が拡大します。

IBM Rational Lifecycle Package with ClearCase ソリューションの活用

ベスト・プラクティスを一貫して活用し、情報や成果物をチーム全体に効率的に伝達し、変更による影響を分析および管理してビジネスの生産性を向上させるために、IBM は Rational Lifecycle Package with ClearCase ソリューションを作成しました。このバンドルには、Rational ClearCase、Rational ClearQuest、Rational Method Composer および Rational RequisitePro[®] が含まれ、大規模から小規模まで、幅広い企業をサポートします。Rational ClearCase バージョン 7.1 は、単独またはこのバンドルの一部として、コラボレーション、自動化、およびレポート作成の機能によってビジネス目標の達成をサポートする拡張機能を提供します。

追加情報

IBM Rational ClearCase バージョン 7.1 の詳細については、IBM 担当員または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、以下にアクセスしてください。

ibm.com/jp/software/rational/products/scm/cc/



お問い合わせは、IBM ビジネス・パートナー、製品販売店、弊社営業担当員または、ダイヤル IBM (0120-04-1992) へ。受付時間：月～金 9:00～18:00（祝日 12/30～1/3 を除く）携帯電話でおかけのお客様は下記の電話番号でご利用ください。ダイヤル IBM 03-6220-8002（この場合通話料金はお客様のご負担となります。）

© Copyright IBM Corporation 2008

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木 3-2-12

Produced in Japan
2008 年 11 月
All Rights Reserved

IBM、IBM ロゴ、ibm.com および Rational は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。これらおよび他の IBM 商標に、この情報の最初に現れる個所で商標表示（® または ™）が付されている場合、これらの表示は、この情報が公開された時点で、米国において、IBM が所有する登録商標またはコモン・ロー上の商標であることを示しています。このような商標は、その他の国においても登録商標またはコモン・ロー上の商標である可能性があります。現時点での IBM の商標リストについては、ibm.com/legal/copytrade.shtml の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

本書に記載の製品、プログラム、またはサービスが日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、プログラム、またはサービスについては、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。

本書に含まれる情報は、情報提供のみを目的に提供されています。本文書の情報の完全性および正確性については最善の努力を払いましたが、本文書の内容は法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負うことなく、現存するままの状態を提供されます。また、本文書は IBM の現在の製品プランまたは戦略に基づくものです。この製品プランまたは戦略は予告なく変更されることがあります。IBM は本文書およびその他関連文書の使用に起因するいかなる損害についても責任を負いません。本文書に含まれる内容は、IBM またはそのサプライヤーもしくはライセンサーによるいかなる保証または説明も提供する、またはその効果があると見なされるものではなく、また IBM ソフトウェアの使用について規定し適用される使用許諾契約書の条項を変更するものではありません。